

## 水 産 業

本県の東部は太平洋に面し、西部は東京湾の一部を形成し、海岸線は352キロメートルにおよび太平洋岸には暖流が流れ、秋期には寒流も房総半島沖合に達するので、多くの漁族が回遊する自然要因に恵まれ、全国屈指の水産県として知られている。

西部東京湾は沿岸約80キロメートルの浅海干潟を形成し、古くから浅海養殖が盛んな地域である。しかし近年県経済発展の一助として、企業誘置等で干拓埋立が行われつつあるので、今後の浅海養殖に大きな変化をもたらすものと思われる。

昭和33年の臨時沿岸漁業調査の結果をみると、漁業経営体数は16 310あるが会社、漁業協同組合等の経営する比較的規模の大きい企業体は少なく、全体の93.9%が漁家で占められている。なお漁業種類別にみてものり、あさり、はまぐり等の浅海養殖業が59.3%で半数以上を占め、つぎに釣、延縄漁業14.7%の順となつている。

また、漁業世帯数は15 970世帯でほとんどが兼業であり、世帯員数は96千人、うち漁撈に従事する人々は68千人である。

つぎに漁船登録法により登録された昭和33年の漁船総数は25 632隻、総トン数41千トンで、そのうち動力船は隻数で26.3%である。また、海水漁船をトン数別にみても5トン未満が84.3%、50トン以上の大型漁船は0.3%（79隻）に過ぎない。しかしわずかながら大型漁船は増加しつつある。

一方海面漁獲高においても年々増加し、33年では298千トンに達し、北海道、宮城、長崎について全国第4位である。漁類別ではいわし、さんま、あじ等が多く、のり、貝類は全国でもその名を知られている。